

魅力ある大学生にもインタビュー

明日へ ジャンプ

特別編 No.205

『伊勢崎てらこや』で培った経験 児童の声に耳を傾けられる先生に

東京福祉大学 教育学部 4年 ^{いしかわ まみ}石川 真望 さん



東京福祉大学で教員を志し勉強に励む石川さんは、地域の子どもたちの居場所づくりを目的に活動する学生を中心とした団体『伊勢崎てらこや』で学生代表を務めています。そんな石川さんに活動に参加したきっかけを聞きました。

「大学1年生の時に先輩から教員採用試験にも役立つと勧められたのがきっかけです。もともと子どもと関わるのが好きで、入学後は学業以外にもさまざまなボランティア活動に参加したいと考えていたため、参加を決めました」

これまで『伊勢崎てらこや』の一員として、地域の子どもたちのための催しを実施してきた石川さんですが、実施に至るまでの過程では苦労することもありました。

「やりたいことが明確になっていても、それを実現するために必要な費用や場所などを限られた時間の中でメンバーと話し合い、調整しなければならず苦労しました。しかし、実際に子どもたちが楽しむ様子をみると、それまでの苦労は報われ、活動を通して子どもたちの成長を見守ることの喜びを知ることもできました」



プロフィール

いしかわ・まみ
医療系の専門学校へ進学後、教師を志し東京福祉大学に入学した。『伊勢崎てらこや』以外のボランティア活動にも積極的に参加している。趣味は茶道で、大事な茶会を控えた日に、着物を着て大学の講義を受けたこともある。

4年生になり教員採用試験の勉強の傍ら『伊勢崎てらこや』の学生代表も務め、目まぐるしい1年を過ごしたという石川さん。教員採用試験にも見事合格し、来春からは小学校の教員になることが決まりました。最後に、石川さんが目指す教員像を聞きました。

『伊勢崎てらこや』で活動する中で、子どもだけでなく多くの大人と関わり、自分とは異なる視点や価値観の重要性に気付きました。大学卒業とともに『伊勢崎てらこや』も卒業となりますが、活動を通じて学んだことを生かし、児童の声に耳を傾け、多角的な視点から児童と接することができ先生になりたいです」